

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	第9回西脇市まち・ひと・しごと創生会議
開催日時	令和2年9月30日（水） 午前10時00分～午前12時00分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンターホール
出席委員の氏名又は人数	12人
欠席委員の氏名又は人数	1人
出席職員の職・氏名又は人数	4人
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	2人
議題又は協議事項	1 西脇市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
会議の記録（概要）	
発言者	
事務局	1 開会  ○資料の確認  ○会議成立報告 委員数13名中、本日の出席委員数12名により、本日の会議が成立する旨を報告
事務局	2 まち・ひと・しごと創生会議の運営について
委員	○委員の紹介・あいさつ
事務局	○会長・副会長の選出 西脇市まち・ひと・しごと創生会議条例の規定に基づき、加藤委員を会長に、嶋田委員を副会長に選出
会長	○会長あいさつ

事務局	<p>3 西脇市まち・ひと・しごと創生総合戦略について</p> <p>○資料2に基づき、事務局から説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生の背景・概要</li> <li>・西脇市の地方創生 ― 総合戦略の概要 ―</li> <li>・西脇市の人口動態</li> <li>・令和2年度の地方創生の主な取組</li> </ul>
委員	<p>人口減少や課題提起など、西脇市の状況、地方創生の取組について説明いただいたが、問題の根本原因を取り除く解決策となっているのかは疑問である。例えば、大きな課題として若者の流出が挙げられているため、その課題解決としては、仕事の創出といったものが取組内容として適切だと考える。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響下で、リモートワークや地方への移住といった動きが出ている中、どういった支援策が移住促進などにつながるかということであるが、自身は7～8年前に西脇市に移住して、当初からリモートワークを実施している。勤務先から手当が出る人もいると思うが、自宅が職場となるため、電気代や水道代の支援があると嬉しく思う。また、テレワークをはじめするための技術を磨くサポートなど、そういった支援があることを都市部の企業にアピールすると良いのではないか。</p> <p>一方で、リモートワークをするために都市部から移住してくる人の絶対数は多くないと思われるため、人口減少に対応していくためには、若者にヒアリングをして、なぜ戻ってこないのかという点を明らかにして対策していくことが重要だと考える。</p>
会長	<p>なぜ若い人が戻ってこないのかという点を深掘りし、西脇型の挑戦、大胆な施策を打ち出してほしいと思う。</p> <p>最近の報道で、通勤手当を廃止するというものがある。通勤手当は日本独特の仕組みであり、都市の構造が市場の動きに合わない可能性がある。通勤手当が廃止されたときに、従業員はどのような動きをするのか関心がある。一方、今はリモートで仕事ができる時代であり、集まることが重要視されなくなってきた。会社の近くに住む必要はなくなり、企業によっては通信費を手当しているところも出</p>

<p>委員</p>	<p>ているようである。</p> <p>都市部でテレワークをしている人は、通信環境に問題は無いようであるが、自宅のリビングで仕事をするなど、家族にとっても、仕事環境としても良い環境とはいえず、結局オフィスに行くことになっているようである。</p> <p>このため、書斎をつくるための改装費などをサポートしてもらえると嬉しいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>詳細なデータを示していただいた。データの中で、ここ数年の人口の減少幅が小さくなっているように思う。これが対策の成果なのであれば、その点を明確にすることで、第2期の総合戦略につながっていくように思う。</p> <p>最近「空き家」が移住の重要なキーワードとなっているように感じているが、移住し、定住されている人の状況をどの程度把握されているか。</p> <p>自宅のリモートワーク環境の整備という話があったが、多可町では地域のヒノキ材を使用した書斎スペースをDIYするための技術習得講座を開いている。1年間の講座で、比較的低価格で自宅に仕事環境を整備できるだけでなく、地域の木材を利用でき、また、講座を通して地域との関わりを持つこともできるメニューとなっている。</p> <p>西脇市と多可町は様々なところで連携していると思うが、こういった面白い取組も含め、他の自治体などと連携できるところは連携していくことも重要だと考えている。</p>
<p>事務局</p>	<p>本市では空き家バンクを運営しており、移住希望者の方になぜ西脇市を選んだかというヒアリングを行っている。回答としては、物件が良かったという意見が最も多くなっているが、その背景として「ほど良い田舎」という点があるように思う。この「ほど良い田舎」という点がどういうものなのか、深掘りしてみたいと考えているところである。</p>
<p>会長</p>	<p>外から見ると、西脇市には魅力的なものがたくさんあると思う。また、広域連携は重要な視点であると思う。これまでも取組を進められていると思うが、様々な形で他と結びつくよう、今後も進めてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>県外で飲食店を営んでいた人から、西脇市内の空き家を</p>

	<p>改修して新たに飲食店を営みたいという新規開業の相談を受けた。やはり物件が良かったという点で西脇市を選んだようであるが、それ以外に、環境が良い点や、近隣にキャンプ場がたくさんあり、アウトドアが盛んで楽しめそうという点で西脇市を選んだようである。創業塾も実施しているが、20名が受講して、起業されるのは数名であり、移住してすぐ営業していただけるのはありがたいと思う。</p>
委 員	<p>西脇市は文化工芸都市として栄えたという印象がある。文化的に豊かであったという点が、文化的財産として西脇市に残っているように感じている。</p> <p>西脇市の推進するファッション都市構想の中で、播州織のデザイナーとして若い方が移住されている。デザイナーは一種のクリエイターであり、ものづくりだけでなく、柔軟な思考や発信力を持っている。</p> <p>西脇市には文化的な魅力や、歴史を感じる昭和レトロな雰囲気や、面白い建築物が残っており、そういったところに様々なアイデアを持ったクリエイターが集まってくるのだと思う。</p> <p>地方で活性化に成功したまちの多くは、クリエイターと公共が官民連携で動いており、クリエイターを引き付けることが地方創生につながると考えている。</p> <p>西脇市のふるさと納税の返礼品は400以上あり、他市と比べても多く、それだけ魅力的なコンテンツがあるということだと思う。これらが、新たな産業に結び付くと良いと思う。</p>
会 長	<p>他市の審議会等に出席しているが、最近では、地域の文化が見直されてきているように感じている。</p>
事務局	<p>比延地区での空き家利活用の事例を一つ紹介する。比延地区主催で地区内の空き家の利活用についてコンペティションを開催し、住吉町に古民家カフェがオープンすることになった。このような地区での取組により、空き家が解消され、移住者も増えることにつながった。</p>
委 員	<p>若い世代の転出が多い点について、やはり雇用の創出が重要だと思う。近隣に比べると、企業誘致が弱いのではないかと思う。</p>

	<p>都市部でテレワークをしようと思うと、やはり自宅のリビングで仕事をしなければならず、空き家を利用したシェアオフィスなどの家賃補助があると良いと思う。</p> <p>子育てについては、近隣の自治体で高校生までの医療費無償化などを実施されている。財源のこともあり、単純に比較できるものでもないが、子育て世代の流出の一因でもあると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>都市部の人にとって「古民家」は移住のキーワードである。「古民家でリモートワークしませんか」「古民家空いてます」といった呼び込み方は効果的だと考える。</p>
<p>委員</p>	<p>「古民家×店舗」や「古民家×リモートワーク」のように、掛け合わせて提案することが大切だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、集まるのが難しくなっているが、母親同士の交流の場があることが大切だと思う。</p> <p>ホテルの運営では、集まるのが難しい状況ではあるが、顔合わせや結婚式が挙げられないという方に向け、プランを考えているところである。</p>
<p>委員</p>	<p>新聞の北播欄を見ていると、西脇市の記事よりも近隣市町の記事が多いように思う。すでに西脇市が実施していることでも、「新たに〇〇を実施します」という記事になっており、西脇市はもっとPRが上手にできなければならないと思う。</p> <p>昔からの文化遺産の話が他の委員からあったが、市外出身の方に刺激をいただいて、改めて、地域の強み、西脇市の良さを掘り下げたいと感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>阪神間から移住された知人から、西脇市の魅力を教えてもらうことが多く、西脇市に住んでいながら、西脇市のことを知らないと感じている。小学生は、社会見学として県庁などに行っているが、見学先として、もっと市内に目を向けてもいいのではないかなと思う。地域のことを知ることが、一度市外に出た子どもたちが戻ってくることに繋がると思う。</p> <p>近隣の市町にはケーブルテレビがあるが、西脇市にはな</p>

<p>委員</p>	<p>い。一方、Facebookは見やすいと感じており、もっとPRしていくべきだと思う。</p> <p>高校生までの医療費の無償化を理由に、西脇市ではなく近隣市町を選んだ知人も何人かいるため、実現すると良いと思う。</p> <p>丹波篠山市内の空き工場をリノベーションしたカフェを訪れた。西脇市にも多くの空き工場があり、西脇市でも実現できそうだと感じた。</p> <p>現在、農業をしない人が増えており、一部の方に負担が集中している状況である。都市部の農業に携わりたい人の支援をすることで、若者の移住・就農も進むのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、地場産業である播州織が大きな影響を受けていると思う。最近は飲食や旅行の需要も少しずつ回復してきており、衣類も今後の回復に期待したい。</p> <p>産業が発展すると人が集まる。県としても地場産業の継続に向け、市と共に取り組んでいきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>都市部からの移住を希望される方にとって、消防団の制度がネックになると感じている。若い人が少ないために、何年も消防団活動をしななければならないほか、消防以外の活動も多く、とても負担に感じると思う。また、消防団に参加しなければ、地域の中で関係を作ることが難しいなど、排他的に感じる。</p> <p>若者が溢れている時代ならばいいかもしれないが、制度の見直しが必要だと感じている。消防団制度の必要性を訴えられる方もいると思うが、社会の状況が変化しているにも関わらず、5年前、10年前と同じことをしているのであれば、制度は破たんすると考える。</p>
<p>副会長</p>	<p>播州織は厳しい状況である。特に、新型コロナウイルス感染症の影響で、百貨店での売上がなくなったことが大きい。現在は国の助成を活用しながら動いているが、この状況が続くと事業を止めるところが多くなると感じている。</p> <p>一方で、現在の状況にも対応できるよう、業界を変えていかなければならない。アパレルに頼らず、新しい商品をつくって発信をしていかなければならない。</p>

	<p>自社では、ブランドを立ち上げてから10年が経過して、やっとかたちになったところである。ノウハウ等の蓄積が必要であり、新たな事業形態に対応できる人材の育成を支援いただきたい。</p> <p>地域に入ってきたデザイナーが、西脇市で事業を起こすような流れが生まれることが大切である。デザイナーたちは様々なチャンネルを持っており、SNSで発信してしてもらいたい。</p> <p>市内で雇用をつくっていくことは難しいが、神戸市や小野市への通勤が可能であるということ発信していくことで西脇市に住む人も増えるように思う。</p> <p>市内でも様々な文化教室があるが、どこでどのようなことをしているか情報をキャッチすることが難しい。そういった案内ができるスペースがあると良いと思う。</p> <p>事務局 ○資料2に基づき、事務局から説明 ・総合戦略の改定について  (委員からの意見は特になし)</p> <p>事務局 4 その他  (特になし)</p> <p>事務局 5 閉会 ○事務局あいさつ  (閉会)</p>
問合せ先	<p>西脇市都市経営部次世代創生課 TEL 0795-22-3111 / FAX 0795-22-1014</p>